

一般質問

主な質問と答弁

江の島周辺地区のシャトルバス

市内回遊性の促進を目指す 積極的に民間事業者に仕掛けを提案する

山口 政哉

(市民クラブ藤沢)

質問 江の島周辺地区でシャトルバスが定期運行されれば、東京2020大会後のレガシーとして、観光面の観光の大きな転換期となり、でも大きな意味があると思うが、本市の観光行政として、どのように捉え、関わることができるのか聞きたい。

答弁 江の島周辺については、国内外から多くの観光客が訪れているが、江の島弁天橋は全長400メートルあり、利用者からは歩行距離が長いとの意見も聞いている。また、市内全体の回遊性の促進も課題となっている。シャトルバスの運行については、バス停の用地確保などさまざまな課題

もあるが、実現した際には、多様な観光客に対する利便性が格段に向上する。まさに東京2020大会のレガシーとして、江の島周辺の観光の大きな転換期となり、市内観光の課題解決に大きく寄与するものと捉えていく。このことから、本市としては、シャトルバスの定期運行が実現した際には、市内の回遊性が高まる仕掛けを民間事業者に積極的に提案するなど、取り組みを進めていく。

質問 産後ケア事業は、宿泊型やデイサービス型、訪問型等の形態での実施を推奨している。本市の出産取り扱い機関では、一般的には産後1カ月で産婦健診が実施されているが、産後2週間健診を行う医療機関もある。そのため、市の事業としての産婦健診実施は、その実質的な調整が必要と考えている。また、産後ケア事業は、先進自治体を調査しつつ、まずは市内医療・助産関連施設等が行う産後の母親への支援として、宿泊型を含めた運営主体や支援内容等の現状を把握し、支援のあり方を検討していく。

質問 暫定的な生活道路の整備については、横浜藤沢線と県道藤沢・鎌倉の交差点から川名緑地の手前までの約330メートルについて、神奈川県が進めている。また、県道藤沢・鎌倉の交差点から川名の市道村岡3

95号線までの約110メートルについては、現在、部分的な供用開始に向け、先行して工事を進めていると聞いている。

答弁 平成28年3月に策定した藤沢市道路整備プログラムでは、各路線の有効性や費用対効果の検証に基づき、優先着手区間、着手時期検討区間及び着手時期未定区間に分類し、優先度を定めている。優先着手区間に位置づけられた鶴沼奥田線などの路線は、事業着手に向けて、28年から29年に地域への説明を行った。優先着手区間以外の路線は、今後、事業化の段階において、地域の方と意見交換等を行い、周知を図って行きたい。

質問 未着手の計画道路用地について、現在の活用状況と、さらなる活用策について、市の見解を聞きたい。

答弁 未着手の計画道路用地については、自治会等の防災倉庫置き場、レクリエーション広場としての活用

のほか、放課後児童クラブの活動場所、緑の広場、自転車等駐車場などとして活用している。

今後、公有財産規則に基づき、事業着手の見通し等を踏まえ、自治会等と連携を図り、有効活用に取り組んでいく。



交通渋滞の解消が望まれる県道32号線川名交差点付近

横浜藤沢線の整備 県と連携し取り組む

甘粕 和彦

(ふじさわ湘風会)

質問 横浜藤沢線は、県道

藤沢・鎌倉までが供用開始されたが、川名交差点周辺において、日常的な交通渋滞が発生している。その対応として事業用地を活用した暫定の生活道路の整備が進められているが、その状況と、横浜藤沢線の今後の整備における課題について

答弁 暫定的な生活道路の整備については、横浜藤沢線と県道藤沢・鎌倉の交差点から川名緑地の手前までの約330メートルについて、神奈川県が進めている。また、県道藤沢・鎌倉の交差点から川名の市道村岡3

95号線までの約110メートルについては、現在、部分的な供用開始に向け、先行して工事を進めていると聞いている。

答弁 平成28年3月に策定した藤沢市道路整備プログラムでは、各路線の有効性や費用対効果の検証に基づき、優先着手区間、着手時期検討区間及び着手時期未定区間に分類し、優先度を定めている。優先着手区間に位置づけられた鶴沼奥田線などの路線は、事業着手に向けて、28年から29年に地域への説明を行った。優先着手区間以外の路線は、今後、事業化の段階において、地域の方と意見交換等を行い、周知を図って行きたい。

質問 未着手の計画道路用地について、現在の活用状況と、さらなる活用策について、市の見解を聞きたい。

答弁 未着手の計画道路用地については、自治会等の防災倉庫置き場、レクリエーション広場としての活用

のほか、放課後児童クラブの活動場所、緑の広場、自転車等駐車場などとして活用している。

今後、公有財産規則に基づき、事業着手の見通し等を踏まえ、自治会等と連携を図り、有効活用に取り組んでいく。

質問 江の島周辺地区でシャトルバスが定期運行されれば、東京2020大会後のレガシーとして、観光面の観光の大きな転換期となり、でも大きな意味があると思うが、本市の観光行政として、どのように捉え、関わることができるのか聞きたい。

答弁 江の島周辺については、国内外から多くの観光客が訪れているが、江の島弁天橋は全長400メートルあり、利用者からは歩行距離が長いとの意見も聞いている。また、市内全体の回遊性の促進も課題となっている。シャトルバスの運行については、バス停の用地確保などさまざまな課題

宿泊可能な産後ケア施設の整備を

神尾 江里

(民主・無所属クラブ)

質問 産後ケア事業は、宿泊型やデイサービス型、訪問型等の形態での実施を推奨している。本市の出産取り扱い機関では、一般的には産後1カ月で産婦健診が実施されているが、産後2週間健診を行う医療機関もある。そのため、市の事業としての産婦健診実施は、その実質的な調整が必要と考えている。また、産後ケア事業は、先進自治体を調査しつつ、まずは市内医療・助産関連施設等が行う産後の母親への支援として、宿泊型を含めた運営主体や支援内容等の現状を把握し、支援のあり方を検討していく。

質問 暫定的な生活道路の整備については、横浜藤沢線と県道藤沢・鎌倉の交差点から川名緑地の手前までの約330メートルについて、神奈川県が進めている。また、県道藤沢・鎌倉の交差点から川名の市道村岡3

95号線までの約110メートルについては、現在、部分的な供用開始に向け、先行して工事を進めていると聞いている。

答弁 平成28年3月に策定した藤沢市道路整備プログラムでは、各路線の有効性や費用対効果の検証に基づき、優先着手区間、着手時期検討区間及び着手時期未定区間に分類し、優先度を定めている。優先着手区間に位置づけられた鶴沼奥田線などの路線は、事業着手に向けて、28年から29年に地域への説明を行った。優先着手区間以外の路線は、今後、事業化の段階において、地域の方と意見交換等を行い、周知を図って行きたい。

質問 未着手の計画道路用地について、現在の活用状況と、さらなる活用策について、市の見解を聞きたい。

答弁 未着手の計画道路用地については、自治会等の防災倉庫置き場、レクリエーション広場としての活用

のほか、放課後児童クラブの活動場所、緑の広場、自転車等駐車場などとして活用している。

今後、公有財産規則に基づき、事業着手の見通し等を踏まえ、自治会等と連携を図り、有効活用に取り組んでいく。

質問 鶴南小学校等改築工事について、市として高額の計画になっていることは認識していると思うが、工事における執行体制の問題や課題の有無について聞きたい。また、工事について一度見直すことも必要と考えるが市の見解を聞きたい。

答弁 この事業は、本市においてこれまでに例がない複合施設となるため、設計前に一年間をかけた保護者、

地域住民、教職員等からさまざまな要望が挙がる中で、合意形成の観点を重視しながら基本構想を策定し、構想の実現に注力してきた。一方で、規模やコスト面の認識が甘く、再検討が十分であったことは反省すべき点であり、結果として高額になったと捉えている。また、今後の実施設計の作業では、コスト意識を持ち、事業費削減の観点から改めて現状のプランを精査していく。今後、学校施設整備を検討する際には、その都度、規模や事業費について、チェック機能が働くようにする必要がありと考えている。この事業は、学校や保育園等の施設の老朽化の解消を図るとともに、避難施設としての側面も合わせ持つっており、安全安心の観点からも、スケジューリング感を持って、計画に基づき事業を進めていきたい。

NTT社宅跡地開発 市との協議書の履行が困難 現所有者に履行の働きかけを

山内 幹郎

(日本共産党藤沢市議会議員団)

質問 辻堂東海岸のNTT社宅跡地の開発について、昭和50年に本市と日本電信電話公社が締結した協議書の内容を履行するべきである

り、また、東日本電信電話株式会社からNTT都市開発株式会社へ権利を譲渡したことから、NTT都市開発株式会社に所有権が移転している。このことから、所有権を持った東日本電信電話株式会社は開発行為を継続・完了できない状態にあるため、協議

内容を履行することは困難である。

また、東日本電信電話株式会社から所有権が移転していることから、NTT都市開発株式会社に協議書の内容の履行を要請したが、困難との回答を受けている。

質問 江の島では、平成30年よりセーリングワールドカップシリーズなどが開催され、多くの観光客を迎えている。大会関係者の自車の走行マナーについて、選手や一般の方々の安全面

から、改善の必要があると考えるが、見解を聞きたい。

答弁 自転車に関する交通ルールやマナーの対策として、本年、藤沢警察署交通課が、選手・関係者に対し、自転車利用時の注意点を指導を行った。しかし、本年の大会においても、交通マナー等に関し、幾つかの問題が見受けられた。本市としても、過去の大会の対応事例等を参考に、関係機関と連携しながら、引き続き、交通マナー等について注意喚起をしていく。

質問 また、オリンピック案に地域住民の意向が反映されているのか。

また、地域住民の要望である、下土棚遊水地への桜

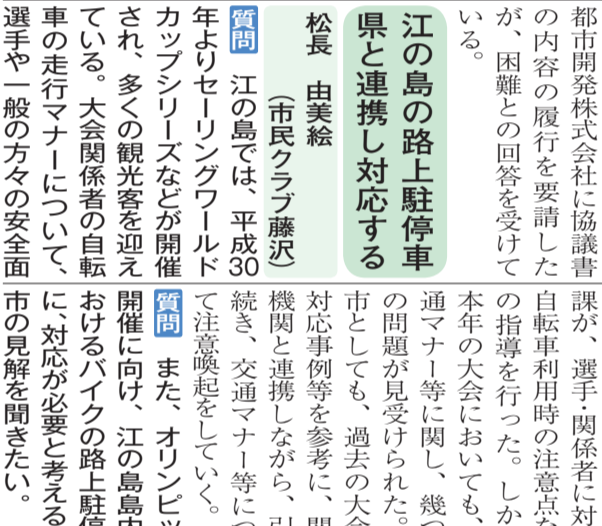
の木の植栽及びトイレの設置については、検討状況を聞きたい。

答弁 下土棚遊水地上部利用計画案は、地域懇談会の中で地域住民の意見や要望を反映し策定している。地域住民の意向として、下土棚遊水地への桜の木の植栽については、湘南台地区郷土づくり推進協議が地域懇談会を通じて神奈川県に対して要望を行っている。さらに、長後地区の方々も引地川沿いへの桜の木の植栽を要望しており、両地区の方々が遊水地や川沿いへの桜に対する強い思いがあることを認識している。これらを踏まえ、桜の木の植栽に関しては、県と市の役割

分担のもと、遊水地機能に影響を与えない範囲で実現化をしたいと考えている。また、トイレの設置について、下土棚遊水地上部利用計画案の中で適正な配置が計画されているものと考えている。



保存・維持が約束されていたNTT社宅跡地の既存樹木



交通渋滞の解消が望まれる県道32号線川名交差点付近



公園としての上部利用が計画されている下土棚遊水地予定地